

授業科目の概要

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
心理学	<p>個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。</p> <p>(1) 多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解 (2) 感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野 (3) 性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。</p>
社会的養護Ⅰ	<p>現代社会における社会的養護に関する意義および歴史の変遷について説明をする。そして社会的養護に携わる援助者としての資質や倫理を、子どもの権利擁護との関連で意識化できるようにする。加えて、社会的養護の制度や実施体制についての理解を深め、現状の理解と今後の課題について言及する。</p>
幼児理解の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握すること（幼児理解）の意義について説明する。 ・ 幼児を理解する上での基本的な考え方や、具体的な方法を説明する。 ・ 幼児理解に基づいた保育者の援助について説明する。
保育内容総論	<p>幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。</p> <p>本科目は、1年次の保育内容の5領域に関する諸科目を受けて行うものである。先ず「保育内容」の全体像を説明し、その後、現場における、具体的な「保育内容」についての状況や問題点等を講義、グループディスカッションなどを通して検討する。なるべく、最新の保育内容の現状についても取り上げる。</p>
社会的養護Ⅱ	<p>社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。</p> <p>本科目では、愛着（アタッチメント）、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立ったうえで、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。</p>
情報応用	<p>近年、国や自治体などが保有するさまざまな公共データを、すべての人が活用できるオープンデータの取り組みが活発化している。また、民間のオープンデータの利活用も盛んに行われている。</p> <p>本演習では、オープンデータの現状を学ぶとともに、利活用方法や効果的な情報発信について考える。</p> <p>また、プログラミングがエンジニア以外にも必要なスキルであることを知るとともに、プログラミングの「学び方を知る」ことを目的とする。</p>
情報サービス論	<p>図書館は利用者の情報探索と情報の入手に対する支援を通じて、地域課題や地域住民の日常生活、学業、仕事に関わる様々な課題解決に取り組んでいる。</p> <p>本授業では、図書館が提供する情報サービスの意義と実践を理解することを目標とする。「情報サービスの意義と理論」「情報検索サービス」「レファレンスサービス」「その他の情報サービス」「著作権」等について解説する。</p>
プログラミング実践	<p>この授業では、プログラミング言語Rubyについて学び、Ruby on Railsを使ったウェブアプリを作成する。</p> <p>Rubyは、松江市在住のまつもとゆきひろ氏によって開発されたオブジェクト指向プログラミング言語である。このRubyが世界中に広まるきっかけとなったのが、ウェブアプリケーションフレームワークRuby on Railsの登場である。松江市をはじめ、島根県では、このRubyをIT産業振興の要（かなめ）として推進している。</p> <p>最初に、Rubyを含むプログラミング言語全般について学ぶ。また、プログラミングで使用する環境やアプリについて学ぶ。</p> <p>次に、Rubyプログラミングの基礎を学ぶ。学びながら、演習問題を解いていく。</p> <p>Rubyの基礎を学んだ後、Ruby on Railsを使ってウェブアプリを作成する。</p>

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
メディアコンテンツ制作Ⅱ	<p>この授業では、グループでウェブサイトを作成する。</p> <p>昨今、ソーシャルメディアの台頭により情報発信の手段は多様化しているが、それ以前からある情報発信の手段「ウェブサイト」（日本ではホームページと呼ばれることが多い）は、特に企業、団体、組織にとって、ほぼ必須であり、今でもその重要性は変わらない。ウェブサイトについて深く考察し、実際にそのコンテンツを作成することで、そのデザインや表現方法・手法などを学ぶ。</p> <p>最初に、インターネットやウェブサイトの仕組み、また使用する技術について学ぶ。</p> <p>次に、インターネット上に多く存在する既存のウェブサイト进行调查する。その特徴をまとめ、自分たちが制作するウェブサイトの参考とする。</p> <p>その後、グループで制作するウェブサイトのテーマを決め、制作を開始する。</p> <p>制作したウェブサイトについて、中間発表会と成果発表会の2回プレゼンを行う。</p>
日本古典文学	<p>日本の古典文学のうち、上代から中世までを対象として、その時代の代表的作品の考察を行う。</p> <p>作品は、神話・和歌・物語・日記・随筆、それらを典拠としつつ新たな解釈を加えた伝統芸能を扱う。古典文学の分析方法、古代的な発想・慣習・文化について理解を深めたい。また文学者の人生についても焦点を当て、当時の文化や歴史的背景をふまえて文学を理解する力を養う。</p>
日本の言語と文化Ⅱ	<p>日本語の分析を行う。</p> <p>前半は『あゆひ抄』（大旨）の読解を行う。『あゆひ抄』とは富士谷成章が著した江戸時代の文法書である。本書は変体がなで書かれているため、毎回翻字の課題を出す。</p> <p>後半は『あゆひ抄』の品詞分類の方法に基づいて、現代語の分析を行う。毎回、品詞分解の課題がある。</p> <p>授業を通して、日本語を分析すること、日本語について考えるということを経験する</p>
情報資源組織論	<p>図書館における情報資源組織の意義および情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解することを目標とする。</p> <p>印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と方法について、書誌コントロール、書誌記述法、主題組織法（分類法、件名法）、メタデータ、各種MARC、書誌ユーティリティ等の観点から解説する。</p>
情報と社会Ⅱ	<p>この授業では、社会、地域、または企業・団体が抱える課題・問題に対して、情報技術（ICT）を用いた課題解決：DX（デジタルトランスフォーメーション）のプロセス（分析、仮説、実行、検証、評価）を実践する。</p> <p>最初に、実際の団体や企業の方をお招きし（または訪問し）、事業内容や課題についてお話をいただく。</p> <p>次に、実際の課題に対する分析、仮説、実行、検証、評価プロセスを実施し、結果をまとめる。</p> <p>その後、実施結果についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>上記プロセスを2回行うことで、課題解決プロセスをブラッシュアップし、解決へと近づけていく。</p>